

「命がけの信仰」

～吉次姉の信仰に学ぶ～

「あなたがたは、ただキリストを信じるだけでなく、キリストのために苦しむという特権をも与えられているのです。私たちは、共に戦っているのです。…」

ピリピ人への手紙1章29・30a 箴リビングバイブル]

私たちはクリスチャンになったら、問題から解放される、楽な人生を歩むことができると考えてしまいます。確かに、心の支え、力が与えられるものが信仰です。

しかし、信仰を持つということは、闘いが始まることも意味しています。この世の流れと逆行するからです。しかし、その信仰を守り、闘い、立ち向かっていくことなしに、勝利を経験することはできません。そうでないと敗北の人生を歩み続けてしまいます。

先週は吉次晃二兄がきてくださり、この教会で洗礼を受け、約2年間この教会で過ごされた奥様の裕子姉のお証しと、ご自身のお証しをしてくださいました。

奥様とこの信州に来られて、奥様がクリスチャンとなり、共に教会生活を送るようになったこと。そして、数年前から奥様のご病気との闘いが始まり、その中で、ご主人様が主イエス様を受け入れ、洗礼をお受けになったこと。素晴らしいご夫妻だったなあと思わせられましたし、主が力強く姉妹を用いられたのだなあと思いました。「命がけで…」ご主人様はじめ、ご家族の救いのために祈ってこられたことをその病を通して証明なさいました。

大事なものは、どのくらい長く生きるかではなく、どのようにその命を使うか。ということを実践なさった姉妹、また、その心を受け止められたご主人様を心より尊敬すると共に、主に大いなる栄光をお返しするものです。

横浜カルバリーチャペルの柴田先生がこの4月に大和でメッセージをされて、その中で吉次姉のお証しを語られました。先生のメッセージは“神様にできること、私にできること”というメッセージでしたが、救いは主がなさることですが、私たちにもなすべきことがある、それを全力でなすのです！と語られました。そして、その最後に裕子姉は命を懸けて家族の救いのためにご奉仕されたことをご紹介します。

私たちが“命懸けで”なすことは一体何でしょうか？吉次姉と同様にまずは愛する家族に信仰の証をしていくことであり、祈りを捧げていくことです。それまでご主人様は耳にタコができるくらいに奥様から“あなたにもクリスチャンになって欲しい”と聞かされていました。それでもそれが実現するまでにはかなりの時間を要しました。しかし、姉妹が難病になり、ご主人様は心柔らかにされ、“妻のために自分にできることは信仰を持つことだ”と悟られました。その病のときは何と必要だったことでしょう。病気で苦しむ妻を見続ける中で、何も語れなくなる妻を見ている中で、静かに静かにその心の扉をご自分の意志で開くこととなったのです。